調和性評定に関するエピソード記憶の因子数

妻藤真彦

(美作大学)

キーワード: 自伝的記憶、尺度評定、確信度

Number of factors in recollective rating of an agreeableness questionnaire

Masahiko SAITO

(Mimasaka University)

Key words: autobiographical memory, scale rating confidence rating

目 的

妻藤 (2012) は、大学生に対して向性に関する 6 質問を、現在、週、年、高校 2 年生のときの記憶で回答するように求めた。逆転質問は記憶検索 cue として異なる想起パターンを誘導するかもしれないので外向と内向は別々に平均することにし、これらの各記憶ごとの平均を用いて因子分析を行うと、固有値 1 以上の基準で 3 因子になった。プロマックス回転を行うと、(a) 外向と (b) 内向、そして (c) 高校時の内向・外向の記憶が各々因子にまとまっていた。ここで記憶機能の要因 (特に保持と想起・検索) が、評定と関連するのかを探索する方法として、評定値と確信度を組み合わせた変換を工夫した: 確信度の評定過程の仮説として、(a) 信号検出理論タイプを前提とした変換尺度として (評定値 - 1) + (確信度 - 1) / 4, (b) 変動率仮説 (Juslin, 1997; Saito, 1998) のモデル 1 (中央変換) として、(尺度値 - 3) · {(確信度 - 4) / 4} + 3, (c) 変動率仮説 (Juslin, 1997; Saito, 1998) のモデル 2 (ベクトル変換) として、SQRT (尺度値の 2 乗 + 確信度の 2 乗) を用いたところ、(c) 変換では内向と外向の 2 因子となった。ただし、Mills, Reyna, & Estrada (2006) は、要点 (gist) の検索を cue するような質問の仕方と、逐語的 (verbatim) 検索を cue するときとで回答が大きく異なることを示しているの、上記の特性的質問文を書き換え“～というできごとを鮮明に思い出せる”とした質問紙も作成し、上記と同様の分析を行うと、どの変換でも 2 因子となった。しかし、この検討では内向・外向のみを用いた結果であるため、以下では同様の方法を調和性と調和性の逆転項目を用いて、上記の結果がどの程度一般的であるかの検討を行う。

方 法

特性的質問群 (回答者 125 人中、回答不備を除いた 119 人: 女性 95, 男性 24): 調和性に関する単語群と逆転語群 (和田, 1996) から各々 3 項目、計 6 項目をランダムに選択して特性質問セットとした。それに加えて、“現在” セットは “今現” と感じる、“週” セ

ットは “この一週間に” “だった” であり、“年” と “高校” セットは各々 “この一年間に” “高 2 のころ” を追加した質問とした。またエピソード詳細質問群 (回答者 166 人中、回答不備を除く 164 人: 女性 124, 男性 40) では “” “だった出来事を明瞭に思い出せる” を加えた質問文であった。どの質問セットも調和性と調和性逆転項目ごとに個人内で平均されたので、各個人について 10 個の平均値がある。これらの 10 個の平均値を用いて各群ごとに因子分析 (主因子法)。質問紙の表紙に研究協力依頼と結果の匿名処理・回答拒否の権利、回答の方法が述べられており、2 ページ目の始めに向性質問セット、次に記憶セットが置かれた。現在から過去へと遡る順番のものと、逆順のものが作成され、両者ができるだけ同数に近くなるように工夫して配布された。

結果と考察

固有値が 1 以上を基準にしたとき (表 1)、特性的質問 (gist 記憶) では、平均、信号検出変換および中央変換のどれも、高校時代の記憶が 3 番目の因子となり、他の 2 因子は各々高校以外の質問と逆転項目である。そして、ベクトル変換では高校が別因子にはならず、すべての質問セットについて質問と逆転質問の 2 因子となった。

エピソード詳細質問 (表 2: 情景記憶) でも、因子数は特性的質問と同じであるが、ベクトル変換の 2 因子は、質問と逆転質問が混じりあっており、高校以外の年逆転、週、項目、現在、および週逆転が 1 因子となり、その他は高校の 2 つも含んで 2 番目の因子となった。特性的質問の結果は、内向性と外向性に関する結果 (妻藤, 2012) と全く同じであるが、内向・外向に関するエピソード詳細質問では、どの変換も 2 因子になっていたのとはかなり異なる結果である。

記憶へのアクセス cue という点で、内向外向は単に互いに逆転質問という関係ではないのかもしれない。また調和性の場合、記憶アクセスと逆転 cue の関係がより複雑になっている可能性もある。

表 1. 特性的記憶: 1 以上の固有値

因子	尺度平均	累積%	信号検出	累積%	中央変換	累積%	ベクトル変換	累積%
1	3.86	38.60	3.76	37.56	4.08	40.79	4.48	44.81
2	2.49	63.54	2.66	64.11	2.43	65.09	1.90	63.84
3	1.10	74.50	1.04	74.54	1.09	76.03		

表 2. 情景記憶: 1 以上の固有値

因子	尺度平均	累積%	信号検出	累積%	中央変換	累積%	ベクトル変換	累積%
1	3.29	32.89	3.33	33.28	3.27	32.74	6.23	62.34
2	2.79	60.81	2.83	61.57	2.80	60.71	1.24	74.75
3	1.09	71.67	1.12	72.75	1.08	71.51		